

◇◇これまでの企業インタビュー◇◇

①SONY グループのインタビュー記事

<https://www.sony-semicon.com/ja/feature/2023072801.html>

②エプソン社のインタビュー記事

<https://www.epson.jp/products/bizprojector/casestudy/sojo-university.htm>

③トライキャスト（アスク・エムイー社）のインタビュー記事

<https://www.ask-media.jp/solutions/1705-sojo-university-iot-ai-center-uses-tricaster-tc-410-plus-in-virtual-and-esports-studio.html>

④ヘッドウォーター社のインタビュー記事

https://www.headwaters.co.jp/service/works/sojo_university_aitorios.html

⑤ベネッセインタビュー（プログラミング教育について）

<https://benesse.jp/programming/article21.html>

⑥産経新聞三者対談

<https://www.sankei.com/article/20210607-HOAZIOZUMFFN5CUZCMZZNDOGVQ/>

⑦マイナビ

<https://p2p-scb.net/article/U-17.jpg>

⑧産経新聞連載（計 8 回）

第 1 回：

<https://www.sankei.com/article/20200417-NKBM7YGIFNXIORQPYDWNAATY/>

⑨西日本新聞社説

<https://www.nishinippon.co.jp/item/607047/>

①プレゼン資料（高島市長との対談資料）

<https://x.gd/UfUTE>

②阿蘇市地域 DX 推進協議会

<https://www.cis.sojo-u.ac.jp/index.php/topix-of-iot-ai-center/297-2025-05-15-20-08-59.html>

③イノベーション人材育成のパネル

<https://x.gd/7O22v>

④IoT・AI センターのパネル

<https://x.gd/IRrzH>

⑤文科省資料

<https://www.cis.sojo-u.ac.jp/index.php/topix-of-iot-ai-center/294-2025-05-15-01-27-38.html>

⑥自治体通信

https://go.jt-tsushin.jp/jt_webinar_202503-01

⑦高島市長との対談

<https://kumamoto-ew.jp/event/2025/113special-dialogue/>

⑧小野市長との対談

<https://www.youtube.com/watch?v=Ho0O0qmYVfM>

⑨TEDx

Coming Soon

⑩番組「NEXT」 インタビュー出演

Coming Soon

⑪TRON 提唱者坂村健先生とのラジオ対談

https://www.sojou-u.ac.jp/faculty/information/informatics/news/2017/180220_002410.html

⑫ブローカレス理論

<https://www.youtube.com/watch?v=l9cRiBoZMKk>

⑬SCB 理論

<https://www.youtube.com/watch?v=4dsB27lj2K4>



NTTネットワーク
サービスシステム研究所
主幹研究員

星合 隆成

P2Pコミュニティ開花!
主役登場

必要以上に管理されない、自由・平等・対等で、自律的なネットワーク社会を構築したい。これが1998年にプローカレスモデルを提唱したそもそもの動機でした。またプローカレスモデルに基づいて構築されるネットワークコミュニティを「Order-Taking Cyber Society(街用聞き社会)」と名づけました。これは、ネットワーク上の動作実体の嗜好・価値観・動作環境・状況等のさまざまな属性に従って、互いにふさわしい相手とコラボレーション可能なネットワーク上の仮想社会を、プローカレスモデルに基づいて構築することをねらいとしています。

技術として、これまでにない斬新で革新的な要素技術が随所に盛り込まれています。また我々はS10Netを次世代ネットワークOSとして位置づけています。つまり、これまでの単なる2者間の直接通信機構を備えたネットワークOSから、自己組織化・自律分散協調が可能なネットワークOSへと飛躍するための、つまり次世代ネットワークOSとして進むべき1つの方向性をS10Netが示しています。またS10Netの特徴的な原理のいくつかは、他のP2Pプラットフォームにおいても採用されており、汎用的なP2P技術やネットワークOS技術としてもS10Netは役立つもの

11月1日に日本コード協会より発表された文書より
自分で撮った写真や著作権の音楽などを交換し合えるようにするためにアッポードするのではなくては共有するためアッポードするのであれば法的な問題は生じません。しかし、レコード会社から発売されているCDの音楽を、

アッポード。ノアイルロゴは、ユーザーからアップロードされたファイルリストをまとめて持ており、ユーザーは新しいファイルを検索し、ファイルを持つユーザーのパソコンからダウンロードする。Napsterとまったく同じ仕組みだが、NapsterはMP3ファイルの交換だけだったのでに対し、ファイルロゴではJPEG、MPEG、ZIPなど様々なタイプのファイル交換ができる。カナダのIT Web Solutions社製のソフトを日本語化している。ファイルタイプでの検索、ソートや、一定量以上のファイルを共有しているユーザーでないと、ダウンロードできないように設定できるなど機能面が優れている。

P2Pビジネスのためには
著作権問題の対応を徹底!

ファイルロゴが公開された当日、日本レ



日経ネットナビ
netn@vi
ADSLトラブル解決/プロバイダ一番付/WinXPの落とし穴
定価790円

一步先いくインターネット活用法
ついに日本ガバーネスに参入!
フレッツ・ADSL“帝国の逆襲”
ライカカラIP電話、ネットオーロー
実践!コレがお薦め
常時接続でできること

ファイル交換という“禁じ手”以外で勝負を!

NTT未来ねっと研究所ネットワークインテリジェンス研究所 星合隆成 主幹研究員

NTT未来ねっと研究所で、P2P技術「S10Net(シオネット)」の開発に取り組む星合隆成主幹研究員は、P2Pソフトを音楽ファイルの交換に使うことに「ベンチャーはアイデア勝負をしてほしい」と苦言を呈す。
「P2Pは大金を投じてサーバーを

作る大企業に、ベンチャーが対抗する道具。参加者のリソースを使い多大な設備投資をせずに大量の情報処理ができる。ファイル交換のような“禁じ手”でせっかくの可能性をつぶしてほしくない」

実際、昨年のNapster問題時には、

「なぜそんな技術をNTTで開発するんだ」という意見もあった。S10Netは1998年に開発を始め、すでに開発は完了。タクシーの乗車希望と空車の情報をP2Pで結びつける「Demand Vehicle」などビジネスに結びつく利用法を開発中だ。



「S10Net」はファイル交換でなく情報探索レイヤーのP2P。次世代のP2P技術です、とアピール

産経新聞コラム連載

<https://scblab.jp/document/112-sankei-column.html>

- 1)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (1) 地域イノベーション, 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200417/rgn200417018-n1.html>, 2020.4.17.

2)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (2) 技術革新, 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200424/rgn2004240007-n1.html>, 2020.4.24.

3)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (3) P2Pの誕生 (上), 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200501/rgn2005010019-n1.html>, 2020.5.1.

4)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (4) P2Pの誕生 (下), 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200514/rgn2005140013-n1.html>, 2020.5.14.

5)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (5) P2Pサービス, 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200522/rgn2005220006-n1.html>, 2020.5.22.

6)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (6) SCB理論 (上), 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200529/rgn2005290029-n1.html>, 2020.5.29.

7)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地球を救う (7) SCB理論 (下), 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200605/rgn2006050021-n1.html>, 2020.6.5.

8)星合隆成, イノベーション創発 新たな価値観が地域を救う (8) SCBラボの取り組み, 産経新聞, <https://www.sankei.com/region/news/200612/rgn2006120026-n1.html>, 2020.6.12.

1)星合隆成, 人や組織, モノつなげ価値創出, 西日本新聞社説・オピニオン,
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/607047/>, 2020.5.10.
西日本新聞社説



<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/607047/>

星合 隆成氏
崇城大情報学部教授
ほし�い・たかじけ　李博士。崇城大I-O-T・AIセンター長も務め、世界初のP2PであるSITIONet・プロトカル理論の提唱者。

地域革新とP2P

人や組織、モノつなげ価値創出

少子高齢化、東京への一極集中、新型コロナウイルスの感染拡大などが、地域経済や地域活性化による影響を及ぼしている。これらの解決に向けて、地域創生の有効手段は、「地域にイノベーションを創出する」ことである。

イノベーション創出は「新たな発想で新たな価値観を生み出す」とことを意味し、「技術革新」と「新結石」に大別される。

技術革新は、技術の進展(革新的な技術)によって新たな価値観を生み出すことである。技術革新の成功事例として、産業革命がある。

第一次産業革命では、蒸気機関で蒸気機関車などを生み出した。第二次産業革命の電気、第三次産業革命でのコンピュータによる新たな価値観は、世の中に大きな変革を促した。現在、第4次産業革命(インダストリー4.0)においてはAI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)が提唱されている。

P2Pの考え方を応用し、コンピュータ同士が直接つながるよう、人と組織、モノなどが結びつき地域インベーシヨンを創発する取り組みを「地域コムニティイブランディング（SCB）」と定義した。熊本県・熊本市・ソフトバンク・マイナビなどが加盟する一般法人「SCBラボ」を中心、全国50のプロジェクトを推進している。地域活性化を目指し、様々な地域活性化の活動に取り組んでいく。

機関車の活用で産業革命など
を生み出した。第2次産業革
命の電気、第3次産業革命で
のコンピューターによる新たな
価値観は、世の中に大きな
変革を促した。現在、第4次
産業革命（インダストリー4.0）
においてはAI（人工
知能）、IoT（モノのイン

少子高齢化、東京への一極集中、新型コロナウイルスの感染拡大などから、地域活性化が深刻な影響を及ぼしている。これらの解決策を向けた、地域創生の有効手段は、「地域にイノベーションを創発する」ことである。

イノベーション創発は、「新たな発想で新たな価値觀を生み出す」という意味で、「技術革新」と「新結合」に大別される。

技術革新は、技術の進展(革新的技術)によって新たな価値觀を生み出すことである。技術革新の成功事例として、技術革新の成功事例として、

人や組織

我々は、この新結合が地域のイノベーション創出に有効であると考えている。地域に志を在する様々な資源同士の新たなつながりによって、新たな価値創造を創出するのである。新結合によって地域にイノベーションを創出することを「地域イノベーション」と呼んでおり、そして、この地域資源を科学的につなげる手法としてP2P

モノつなげ価値創出
・ツー・ピア) ながが主要技術として位置づけられる。
P2Pはコンピュータ同士、ユーザー同士を直接つなげるネットワーク技術である。コンピューターは一般的にサーバー(仲介者)を介してつながるが、仲介者なしで直接接続するP2Pの技術が様々な分野で革新的なサービスを生み出した。インターネット電話のSkype、仮想通貨のブロックチェーン、NSPから保険などである。
一方、新結局は「新たつながりによって新たな価値創造」ながりによって新たなる価値創造

西日本新聞 2020.5.10

「社説・オピニオン」

次のインターネット利用技術——意味情報ネットワーク「SIONet」

【NTT未来ねっと研究所】

究極のワンツーワン・マーケティング 個人参加のネット・コミュニティも

世界最高水準のピアツーピア(P2P)技術 神経系を模した自律分散協調ネット



NTT未来ねっと研究所
ネットワークエンジニア研究部
意思型ネットワーキング研究グループ
主石井義一郎
星合 隆成氏
（左）
星合 隆成氏
（右）

探すにも検索サ
イトでアクセスするよ
うに、ほんと人が仲介者を介しているた
め、その仲介者のサードがターゲットすれば、
検索自体ができません。そして何より
一人一人のセキュリティが確保していく
のです」と説明する。

SIONetでは、一台一台のパソコンや
携帯電話などといった端末が、あるときはサ
ーバー、あるときはクライアントの機能を果
たす、「ピアツーピア(ピア)」という対等
の世界だ。これは、サーバーという高価な
装置を、膨大なデータを、括管理する
ストレージ大容量ハドウースタなどの記
憶装置もなくて構わないことを意味す
るつまり、グローバルで超分散化された
コンピューティングが実現するわけだ。

宛先を動的に 指示できる「意味情報」

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

INTERNET Watch

記事検索

検索

イベントレポート

【2009/06/12】

- ひろゆき氏 & 夏野氏が講演「日本のネットは決してダメじゃない」[18:57]
- 携帯ゲーム機のような見た目のNGN対応回線品質測定器 [14:28]
- ISAO、IPデータキャストを利用したサービスイメージを展示 [11:33]

【2009/06/11】

- アナログ停波後の周波数帯域を利用したマルチメディアサービス [18:50]
- 日テレが「ニュース検索API」などを紹介、国内の地上波放送局初 [18:36]
- UQ Com田中社長、高速＆オープン志向「UQ WiMAX」のメリット語る [17:45]
- 主催者企画コーナーでは、「ServersMan@iPhone」のデモも [11:13]
- 国内初のデジタルサイネージ展示会、裸眼で見られる3D映像など [11:12]

【2009/06/10】

- CO2排出量が都内最多の地域、東大工学部のグリーンプロジェクト [20:01]
- IPv4アドレス枯渇で「Google マップ」が“虫食い”!? [19:29]
- UQ Com、7月の有料サービス開始に向けて「UQ WiMAX」をアピール

P2P技術とは何か～プローカレス理論からSNSによるファイル交換サービスまで

財団法人デジタルコンテンツ協会(DCAj)は7日、「P2Pコミュニケーションの可能性と法的課題 —コンテンツ産業はP2Pといかに向き合うべきか—」と題してシンポジウムを開催した。

DCAjによれば「これまでP2Pを網羅的に議論したことはなかった」という。そこでP2Pに関わる問題の所在から議論を深める目的で、「デジタルコンテンツ関連技術の法的評価に関する研究委員会」を設置。今回のシンポジウムは「1年間の議論の成果を報告し、問題を参加者と一緒に考えるために開催した」としている。シンポジウムでは、第1部「P2Pの可能性と違法有害情報への対応」と第2部「P2Pとコンテンツ産業」として、この委員会に携わった委員や講師がそれぞれの立場から意見や分析を発表。その後にパネルディスカッションを行なった。

P2Pはプローカレスモデル～NTT研究所の星合研究員

まず、最初に登場したNTTネットワークサービスシステム研究所の星合隆成主幹研究員が「P2Pとは何か」を説明した。星合氏は、P2P以前のクライアントサーバー型に代表されるモデルを「サービス提供者がサーバーなどのコンピューティング資源を用意する“プローカ(仲介者)”モデル」と定義する。



「プローカモデルでは接続数が増えれば、それ NTTネットワークサービスシステム研究所の星合隆成主幹研究員を処理するために高性能なサーバーが必要になり、台数も用意しなければならない。また、回線も大容量にする必要があり、設備投資が大変だ。需要予測を間違えるなど投資リスクも抱え込む。」

一方、P2P技術は「サービス利用者のリソースを利用するプローカレスモデルだ」という。P2Pを利用すれば「ユーザーのPCをパケツリレーして情報を送信できる。サービス提供者にとっては、ローコストで情報を流通させることができた」と解説。また、「サーバーにアクセスが集中し、トラフィックのボトルネックが生じてしまうこともない」とP2Pのメリットを強調した。

くまもと 人物語

地域活性化へスタジオ開設

崇城大教授

星合隆成さん 53

「さあ、始まりました。ウォルターズチャンネル！」
4月28日、熊本市中央区の新市街アーケード内のビルの一室。ネット動画サイト「UStrea.ms」で、崇城大の学生6人によるプロバケツトボールチーム「熊本ウォルターズ」の応援番組「ウォルターズch」が始まった。

学生たちが試合の感想などを語り、「市民目線」でチー

ムの情報を届ける。「学生は楽しみながら、情報技術も身につける」ことができ、チームも格好のPRの場になる。双方に利益があるんですよ」と効果を解説する。

知識や技術、意欲を持った様々な立場の人たちがアイデアを出し合い、商品やサービスの事業化、地域課題の解決を図る。そこには今までの過程を含めてブランド化すると「地域コミュニティプラ

ンド（SCB）」理論を指す

。この理論の実証の場として、学生たちが放送を行なう崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」を4月11日に開設した。「斬新な切り口のビジネスが生まれる可能性がある」と期待を込める。

NTT大の研究所に勤めてい

。

にながら着いた。崇城大教授に就任してからは、SCB理論を広めるため、各地でシンポジウムやセミナーを開催。県や市など協議会を発足させ、理論の具体的な活用法も講論してきた。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

インタビュー 今週の この人

地域の事業 ブランド化

崇城大学教授 星合 隆成さん(51)



地方はお金がないし、多種多様な意見を生かすには企業のようなトップダウン型はうまくいきません。平等な立場で人のネットワーク、コミュニケーションティーをつくる仕組みが必要なんです。

——コンピューターネットワークの理論がベースになっているそうですね

――地域コミュニケーションの理念を提倡し、11月月下旬に県や合志市などと協議会を立ち上げました。「ミニユーティプラン」とはひこうものですか

Tでネットワークの研
ていたのですが、19
に「プローカレス理
いうものを提唱しまし
ーバーや管理者のいな
トワークです。例えば
ン同士をサーバーを通
つなげると巨大なコン
ターができます。こう
考えを地域に生かせな
考えたのがきっかけで
この考え方を取り入れ
でに成功した事例もあ
ね

織物の町として知られる群馬県桐生市では、「nunu tech」(布テク)という活動があります。織維業界と異業種の交流や、若者らのアイデアを製品に生かしたPadのケースなどを開発し、東京・渋谷の東急ハンズで販売されました。評判は口コミで広まり、メディアにも取り上げられました。全国で約40のプロジェクトが進んでいます。――県内ではどのような計画がありますか

私一人がすべてのプロジェクトに関わるのは難しいので、これから力を入れたいのは三つ。熊本朝日放送やエフエム熊本などと連携した番組制作、合志市で「脳テク」と名付けた認知症予防システムの構築、熊本市の熊本競輪場の活性化です。

ほかにも、熊本発のスマートフォン用アプリの開発、結婚式場と連携したブライダルブランドの開発など様々なプロジェクトがあります。

— 発足したばかりの協議会

会の役割は地域コミュニティープラントの普及のため、シンポジウムやセミナーの開催、新規プロジェクトなどに取り組みます。発起人になった私と荒木義行志市長、小野泰輔副知事ら5人は相談役のような立場。具体的な活動について話し合った結果、企業経営者やメディア関係者ら11人の運営委員が支援します。地域コミュニティープラントが全国に広まれば、発祥の地熊本にもメリットがあると思っています。

大分県で1979年に始まり、海外にも広まった「一村一品」運動を連想した。地元が誇れるものを作ろうという精神運動の側面もあったと聞く。「地域コミュニティブランド」はもっと複雑そうだ。ネットワーク理論を地域活性化に結びつけてしまう発想が面白い。アイデアや技術を持つ人々がつながり、何かを生み出す仕組みは、疲弊した地方には期待の星になるかもしれない。星合教授は、一見分かりにくい「地域コミュニティブランド」の方法論をまとめた本を近く出版するという。活動が成功し、広まることを期待したい。
(河原一郎)

人のつながりブランド化

先端を走る
Frontier

「地域コミュニティブランド」を提唱

群馬大情報学部教員 星合 隆成さん(50)

■「地域コミュニティブランド」とはどんなものですか?

「ものづくりに脚踏みの人の活動を、生産されるモノと一緒にブランド化していくことです。従来はモノをブランド化して市場に出すことが重視されてきましたが、それよりも生み出す人のアイデアや情熱、開拓に至る失敗や苦労も併せて発信してブランドにしてしまうわけです」

■人の活動をどう発信するのですか?

「ICT(情報通信技術)を応用します。例えば、企画会議の動画をインターネット上で発信したり、開拓した商品にコガキическуюたり。ロゴスマートフォンのカメラでかざすと、その商品の情報をテクノで読めるような仕組みなど、いろんな手法があります。もちろん、フェイスブックやツイッターなど既存のSNS(ソーシャル・ネ

ットワーキング・サービス)も利用します」

■成功例はありますか?

「群馬県桐生市の『unotach』(スノーテック)という取り組みが秀でます。相生は1200人以上続く織物の町、伝統の織物業界に、出すことが重視されてきましたが、それよりも生み出す人のアイデアや情熱、開拓に至る失敗や苦労も併せて発信してブランドにしてしまうわけです」

■人の活動とモノを一緒にブランド化する利点は何ですか?

「私はNTT動員時代にコンピューター開拓士がサーバーなしでつながる「プロカラレス理論」を提唱しました。仲介者は「プロ

群馬の織物業で成功 熊本でも



星合教授(左端)と「地域コミュニティブランド」に関わる群馬大の学生たち=熊本市西区の向大

いほしあい。たかしげ
鶴島市出身。電気通信
大学院で工学博士を取
得。元NTT主幹研究員。
NTT在職中、群馬大客
員教授。日本人非常勤講
師。米ベル研究所の訪問
研究员。主な研究分野
はデータベース技術。サー
バイスとしてビューワー
がネットワークでつなが
る「P2P論」を世界に先
駆けて掲げし。プロ
カラレス理論と名付け
た。2012年4月から現職。
單眼田大招請(じょうへ
い)研究員。

1988年にP2Pネット
ワークの理論を提唱
した星合教授は、優れた
情報技術者でもある。
P2Pネットワー
クは、ビューワー間
でデータドリブンのよ
うにつながるイメージ
取材を終えて
シ、房は違う房ともつ
ない、無限に広がっ
ていく。この考え方を
元々の発想をつなげ
る、単眼田大にいた
るという発想は斬新
だ。今後、群でどう
いう問題を覚悟するのか
注目していただきたい。



ファイル交換という“禁じ手”以外で勝負を!

NTT未来ねっと研究所ネットワークインテリジェンス研究部 星合隆成 主幹研究員

NTT未来ねっと研究所で、P2P技術「SIONet(シオネット)」の開発に取り組む星合隆成主幹研究員は、「P2Pソフトを音楽ファイルの交換に使うことに「ベンチャーはアイデア勝負をしてほしい」と苦言を呈す。

「P2Pは大金を投じてサーバーを

作る大企業に、ベンチャーが対抗する道具。参加者のリソースを使い多大な設備投資をせずに大量の情報処理ができる。ファイル交換のような“禁じ手”でせっかくの可能性をつぶしてほしくない」

実際、昨年のNapster問題時には、

「なぜそんな技術をNTTで開発するんだ」という意見もあった。SIONetは1998年に開発を始め、すでに開発は完了。タクシーの乗車希望と空車の情報 P2Pで結びつける「Demand Vehicle」などビジネスに結びつく利用法を開発中だ。



「SIONet」はファイル交換でなく情報探索レイヤーのP2P。次世代のP2P技術です、とアピール

キーワードを入力

トップ | 速報 | 映像 | 個人 | 特集 | 意識調査 | ランキング | 有料
主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ

人を結ぶコンピューター理論 熊本・崇城大の星合教授が研究

11/6(水) 7:55配信

産経新聞



イノベーションを担う人材育成を始める崇城大情報学部の星合隆成教授

■起業促進や地域活性化、コースを来春新設

コンピューターの理論を応用し、アイデアや能力を持つ個人同士を結びつけて、地方発の起業や地域活性化を促進する試みが、熊本市で進んでいる。来春、市内の崇城大に理論を学ぶ新たなコースが誕生するほか、ソフトバンクなど県外企業も参加し、学生や市民向けの講座やワークショップを開く。関係者は「まず熊本で実績を残し、全国に取り組みを広げたい」と語った。（九州総局 中村雅和）

旗振り役は、NTT出身で同大情報学部の星合隆成教授だ。星合氏はネットワーク技術の専門家として、ピア・トゥー・ピア（P2P）の研究で注目を集めた。

P2Pは、複数のコンピューターに分散して仕事をさせることで、スーパーコンピューターに匹敵する処理能力を可能とする。その技術は、仮想通貨のビットコインの取引記録管理にも使われている。

星合氏はこのネットワーク理論を応用し、人や組織の最適な結びつきを目指す「地域コミュニティーブランド（SCB）理論」を提唱した。「長年、コンピューター同士をどう結びつけるかを研究していた。P2Pが社会に浸透し、次は人間同士や組織をどうつなぐかに、興味が移った」と語った。

目標ごとに個人や組織が持つ能力、実績、資金など、限定した項目を突き合わせ、最適な結びつきを模索する。

「最先端の技術革新は、世界中で大企業がしのぎを削り、地方から入り込む余地は極めて小さい。しかし、地域にあるヒトやモノを新たに結合させ、新たな価値を生み出すことはできる」

星合氏は、具体例として「ポケットベル」を挙げた。「サービス提供側は、単なる呼び出しツールと考えていた。それが女子高生と結びつき、コミュニケーションツールに生まれ変わった。このような革新は誰だって起こすことができる」と分析した。

星合氏はすでに、各地で成果を出した。群馬県桐生市では、地場の繊維産業の関係者を、それまであまり接点のなかったデザイナーや学生と直接結びつけたことで、ニーズとアイデアに気づき、i Padケースなどヒット商品を生んだ。

また、農林水産省の組織改革や、国土交通省による「道の駅」の連携策にも取り入れられた。民間企業を含め全国で50以上のプロジェクトが進むという。

星合氏は、SCB理論の普及を目指す。崇城大は今年1月、星合氏が所長を務める「SCBラボ」を発足させた。さらに令和2年度に新設される情報学部未来情報コースで、SCB理論を学生に教える。授業では、ソフトバンクなど企業担当者との実地研修も予定する。

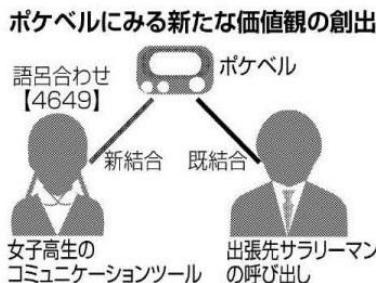
学外では、熊本市中央区にあるシェアオフィス「ザ カンパニー熊本」で、講座やワークショップを開く。関心のある市民が、週末を中心に、SCB理論の基礎を学んでいる。

星合氏は「われわれには他にはない理論がある。日本の将来に不可欠なイノベーションを担える人材を育成してみせる」と語った。

イノベーション創出

新たな価値観が地域を救う

崇城大学教授 星合 隆成



少子高齢化による急速な人口減少、首都圏への一極集中に起因して、地域経済の縮小、多様な人材が活躍できる環境の劣化、持続可能なまちづくりや地域活性化の取り組みの低下など、多くの地方・地域が深刻な状況に陥っています。このような問題の解決に向かって、地域創生の有効な手立ては、地域にイノベーション

を創出することです。ここでいう、「イノベーションの創発」とは、「新たな観点や発想で新たな価値観を生み出す」ことを意味しています。たとえば、クラウチングスタートは、短距離走において立ったままでスタートする」とが常識の時代に、「手をついてスタートすることに価値がある」という新たな価値觀を生み出しました。これは、

催された1896年のアテネオリンピックにおいて、人々に大きな驚きを与えるました。イノベーションは時として非常識な価値観であり、最初は人々からなかなか理解されないものなのです。

イノベーションは時として非

常識な価値観であり、最初は

人々からなかなか理解されないものなのです。

インターネットとスマート

フォンの普及によって拡大し

ポケベル（ポケットベル）

① 地域イノベーション

新たなつながり 価値を創出

ほしあい・たかしげ 昭和37年、徳島市出身。工学博士。崇城大学（熊本）情報学部教授、早稲田大学招聘研究员。元NTT研究所主幹研究員・参与。世界初のP2P（ピアツーピア）ネットワークである「プロトコレス理論」の提唱者で知られる。



は、女子高生と新結合することにより、数字の語呂合わせによるコミュニケーションツールとしての新たな価値観を創発しました。この新結合によるイノベーションは、それが地域創生の救世主になると考えています。地域に点在する地域資源を、新たな発想で新たに「つなげること」で新たな価値観を生み出すのです。そこで、地域イノベーションにおいては、「つながり」をどう実現するかが重要なテーマになるのですが、これまでには主觀・直觀の構築が一般的でした。そのためつながりの持続性・経験などに基づいたつながりの構築が一般的でした。そのためつながりの持続性・再現性・汎用性・コストなどに問題を有していたのです。原則、金曜日に掲載します。

イノベーション創発

新たな価値観が地域を救う

崇城大学教授 星合 隆成

連載の最終回は、「地域に外でどのような活動をしていけるイノベーション創発」について触れたいと思います。ために、われわれが九州内



イノベーション人材育成に向け、昨年12月に熊本県、熊本市など6者が連携協定を結んだ締結式。左から2番目が星合隆成氏—熊本県庁

まず、昨年1月に設立したのが一般団法人「SCBラボ」で

す。現在、ソフトバンク、マイナビ、J-COM九州、熊本県、熊本市、道の駅阿蘇、コワーキングスペースを運営するThe Companyなど50の企業・団体が加盟しています。このラボは、本連載で触れてきた「地域を救う」ために必要な発想やアプローチ」「地域コミュニティープラント(SCB)理論」の普及、そして、SCB理論を用いたイノベーションの推進を目的としています。

設立から1年数か月が経過し、今年4月には「地域でイノベーションを創発できる人材」の育成を目的に、SCBイノベーションアカデミー(熊本校、福岡校、道の駅校(熊本県阿蘇市・八代市)を同時に開校しました。来年春には群馬校も開設予定です。このアカデミーの特長は、SCB理論を柱に、独自のイノベーション教材を開発していることです。たとえば、高

⑧ SCBラボの取り組み

理論普及ヘアカデミー開設

校生向けのイノベーション教材をマイナビと共同開発し、全国の高校向けにリリースを開始しました。同じ4月には、J-COM九州とテレビ番組「イノベーション創発」を共同制作し、大学生や社会人を主なターゲットに放送を開始しました。また、総務省の「地域ICTクラブ普及推進事業」に採択され、小中高生を対象としたキッズイノベーション講座を開講。子供たちにはプログラミングや最先端ICT技術を教えるとともに、これらを用いたイノベーションの創発方法について学んでいます。

最近では、新型コロナウィルスの影響を踏まえ、リモートでのアカデミー講座を全国に向けに開講しました。その結果、オムロン、ヤマトグループ、NECグループ会社、浜松市役所、早稲田大学マニアエスト研究所、ハーバード大学の学生、ベルギーのデザイナーなど国内外140の団体・個人に学んでいただくことができました。

SCB理論の普及に向け、

IIおわり